

農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

1 いもち病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は37.5%（平年27.9%）であり、平年よりやや高かったが、発生程度少以上の発生圃場率は6.8%（平年6.4%）であり、平年並であった（図1）。
 (2) 地域別では、発生程度中以上の発生圃場率は県中、沿岸部で高かった（図2）。

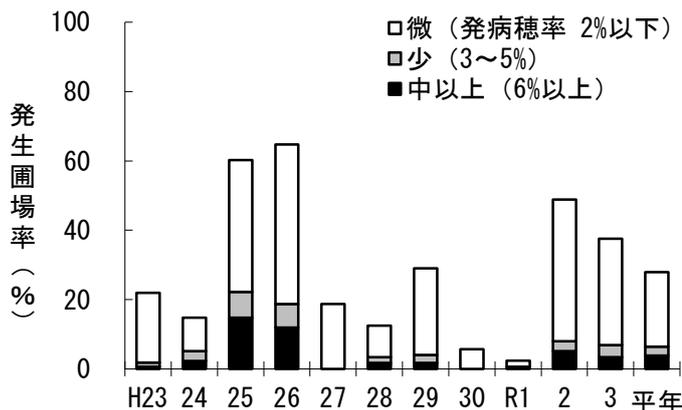


図1 穂いもち発生圃場率の年次推移 (収穫期)

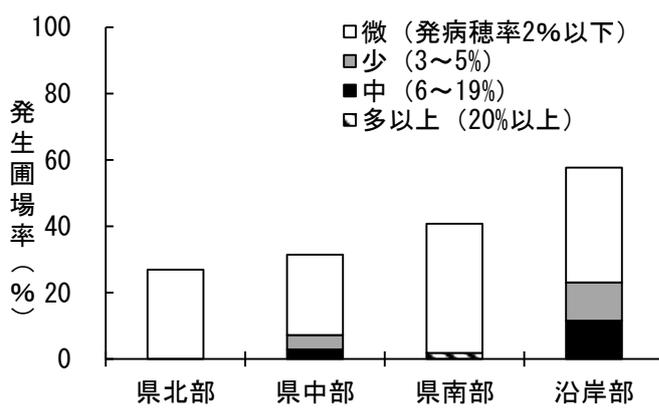


図2 穂いもち発生圃場率の地域別推移 (収穫期)

2 紋枯病 (疑似紋枯病を含む)

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は87.5%（平年75.1%）であり、過去10年間で最も高かった（図3）。

3 ごま葉枯病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は9.1%（平年3.6%）であり、平年より高く、特に沿岸地域で多く見られた（図4）。

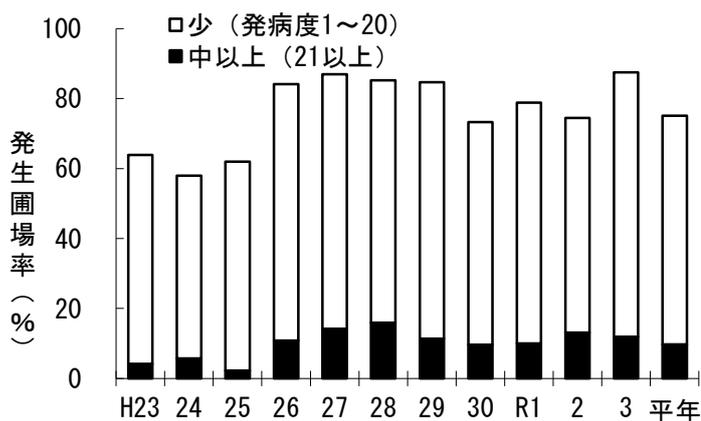


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

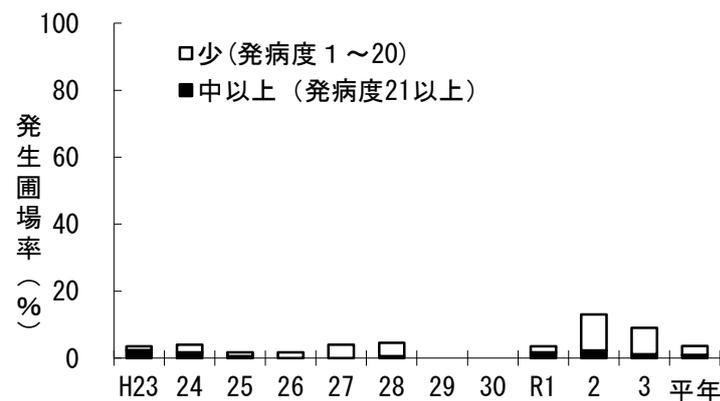


図4 ごま葉枯病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

4 稲こうじ病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は4.6%（平年4.2%）であり、平年並であった（図省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるすくい取り調査では、8月第5半旬以降、平年より高く推移した（図5）。
- (2) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は62.5%（平年35.5%）であり、発生程度中以上の圃場率は27.3%（平年15.3%）でともに平年より高かった（図6）。
- (3) クモヘリカメムシの発生が、沿岸部の一部本田で確認された。

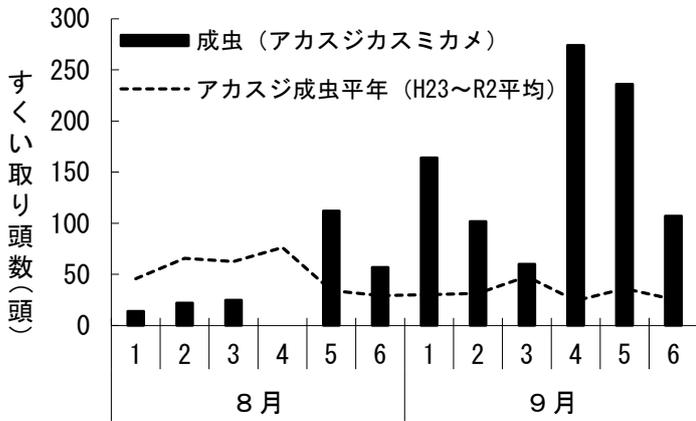


図5 基準圃場（北上市成田）におけるアサジカスミカメ成虫の発生推移（すくい取り、往復20回振）

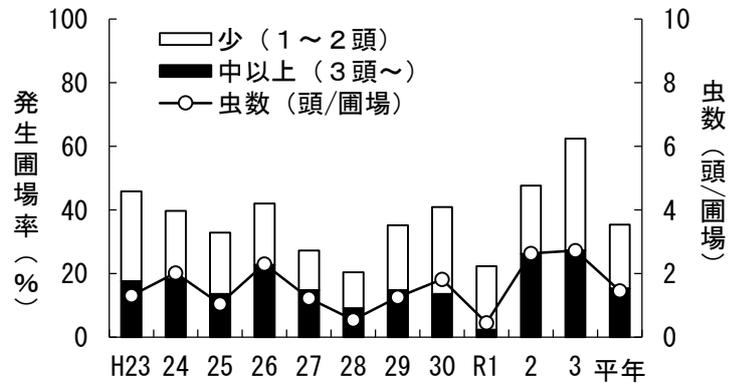


図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は30.7%（平年31.1%）で平年並であった（図7左）。

(2) ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は92.0%（平年63.6%）で平年より高かった（図7右）。

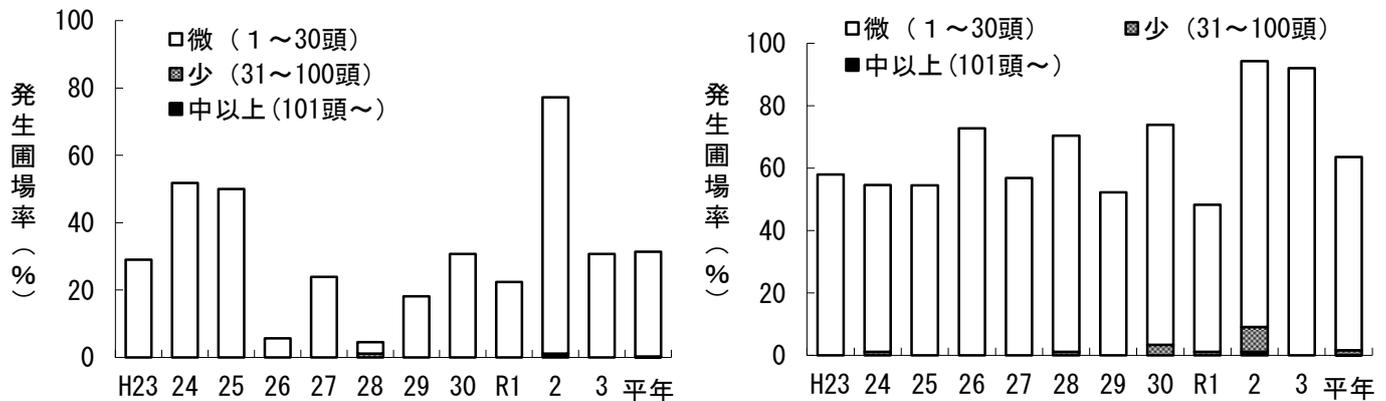


図7 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

7 ツマグロヨコバイ

- (1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、例年確認される沿岸部の2圃場で発生が確認された。

8 イネキモグリバエ（イネカラバエ）

- (1) 収穫期の巡回調査では、一部の圃場で被害穂が見られ、発生圃場率は4.5%（平年1.1%）で平年より高かった。

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

岩手県病害虫防除所

1 斑点落葉病

- (1) 9月後半の巡回調査のふじでの発生園地率は71.0%（平年68.1%）で、平年並だった（図1）。
 (2) 発生度は8月に増加したが、9月の増加は緩慢となった（図2）。

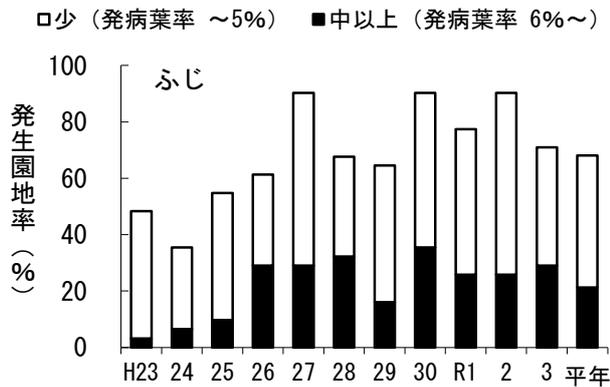


図1 斑点落葉病の発生園地率の推移 (ふじ、9月後半、徒長枝全葉)

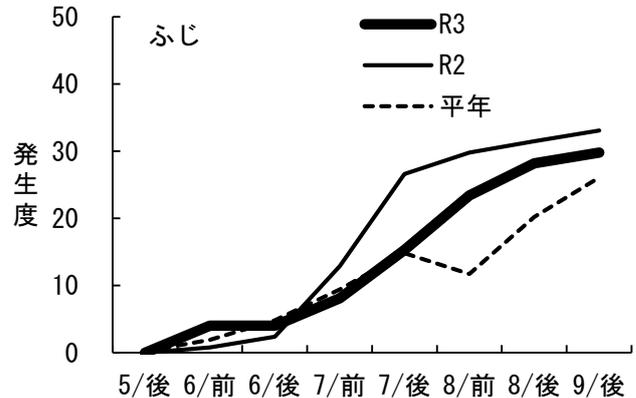


図2 斑点落葉病の時期別発生度の推移 (ふじ)
 ※「発生度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病葉率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

2 褐斑病

- (1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は45.2%（平年38.1%）で、平年並だった（図3）。
 (2) 9月の発生度は平年並に増加した（図4）。

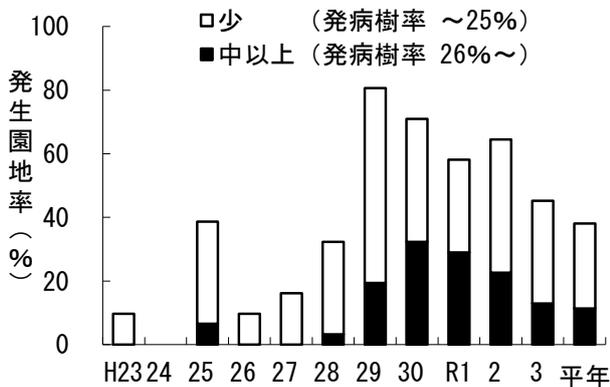


図3 褐斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

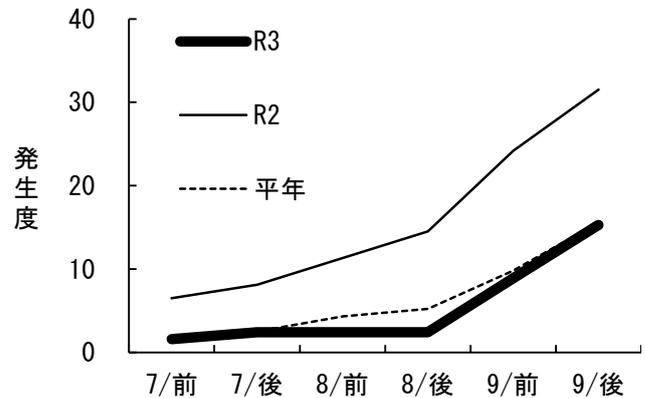


図4 褐斑病の時期別発生度の推移
 ※「発生度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病樹率76%~、B: 51~75%、C: 26~50%、D: 1~25%の園地数

3 黒星病

- (1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、葉は19.4%（平年5.8%）、果実は16.1%（平年3.5%）で、いずれも平年より高かった（図5）。

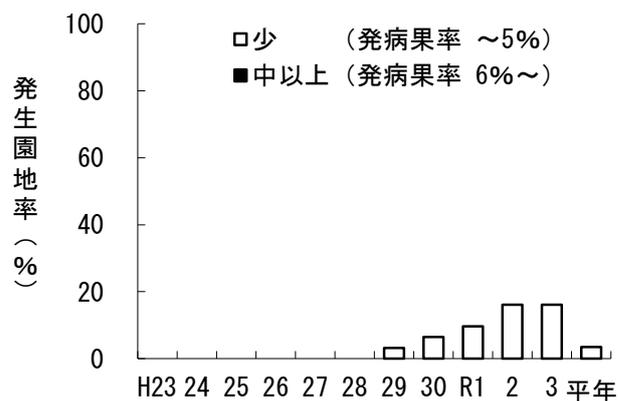
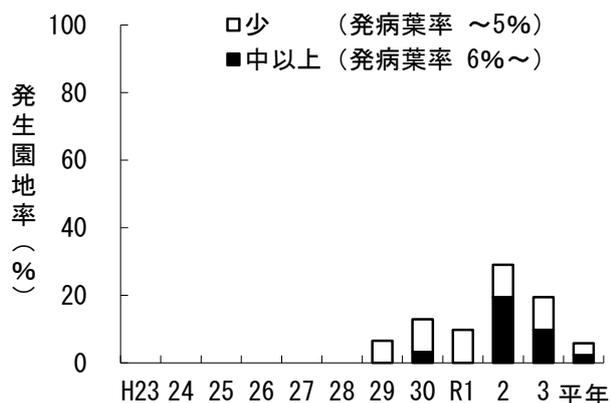


図5 黒星病の発生園地率の推移（9月後半、左：徒長枝葉、右：果実）

4 果実病害

- (1) 輪紋病の9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年10.3%）で、平年よりやや低かった（図6）。
- (2) 炭疽病の9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5%（平年12.9%）で、平年よりやや低かった（図7）。
- (3) すず点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5%（平年4.5%）で、平年並だった（図8）。
- (4) すず斑病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年1.0%、図9）。
- (5) 黒点病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった（平年10.0%、図10）。

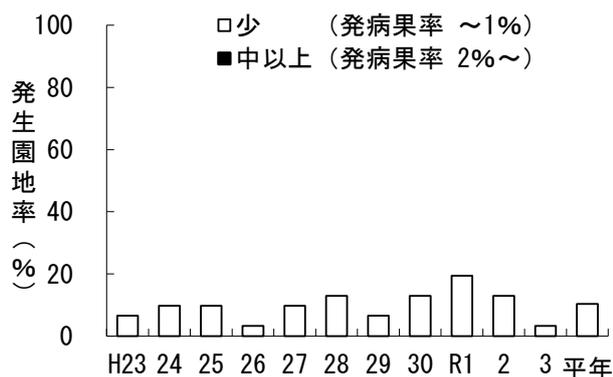


図6 輪紋病の発生園地率の推移（9月後半）

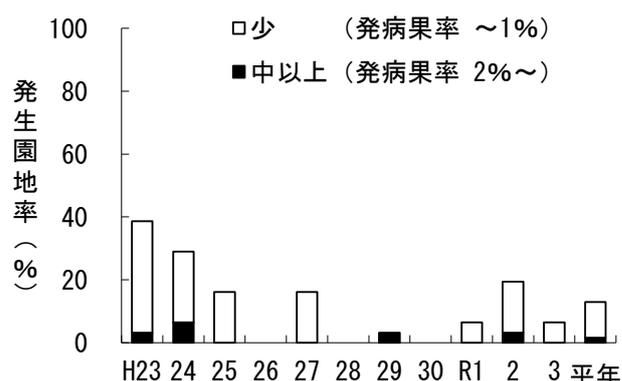


図7 炭疽病の発生園地率の推移（9月後半）

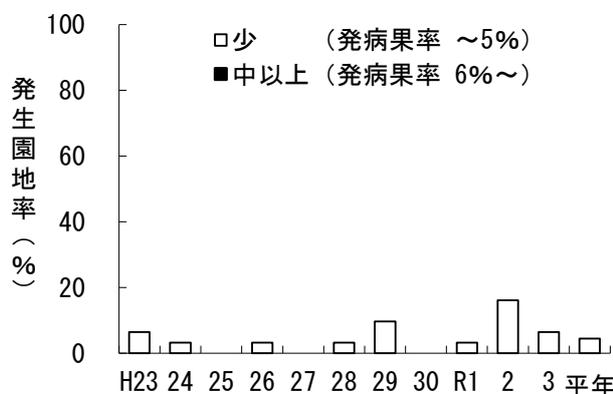


図8 すず点病の発生園地率の推移（9月後半）

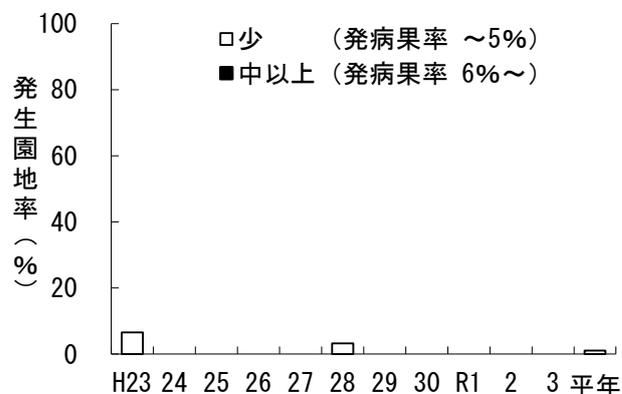


図9 すず斑病の発生園地率の推移（9月後半）

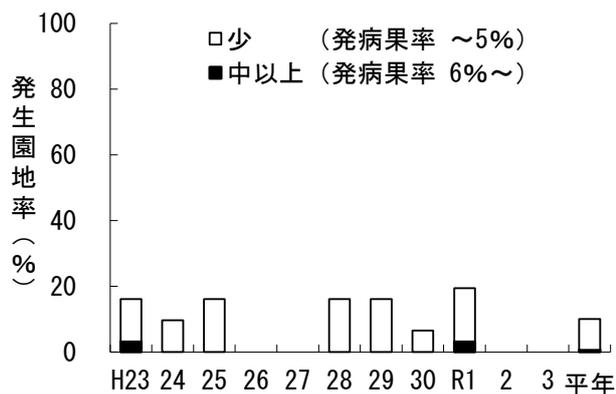


図10 黒点病の発生園地率の推移 (9月後半)

5 ハダニ類

- (1) 9月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、ナミハダニは16.1% (平年17.7%) で平年並、リンゴハダニは12.9% (平年4.8%) で平年より高かった (図11)。
- (2) 時期別発生園地率は、ナミハダニは7月後半から平年より高く推移したが9月で平年並になり、リンゴハダニは7月前半から平年より高く推移している (図12)。

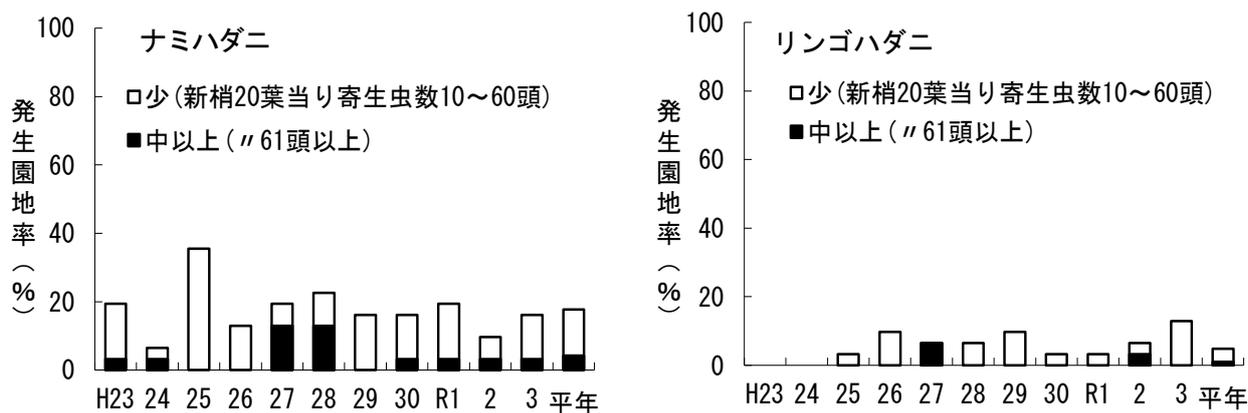


図11 ハダニ類の発生園地率の年次推移 (9月後半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ)
(10頭未満/新梢20葉(10樹)は発生無しの扱い)

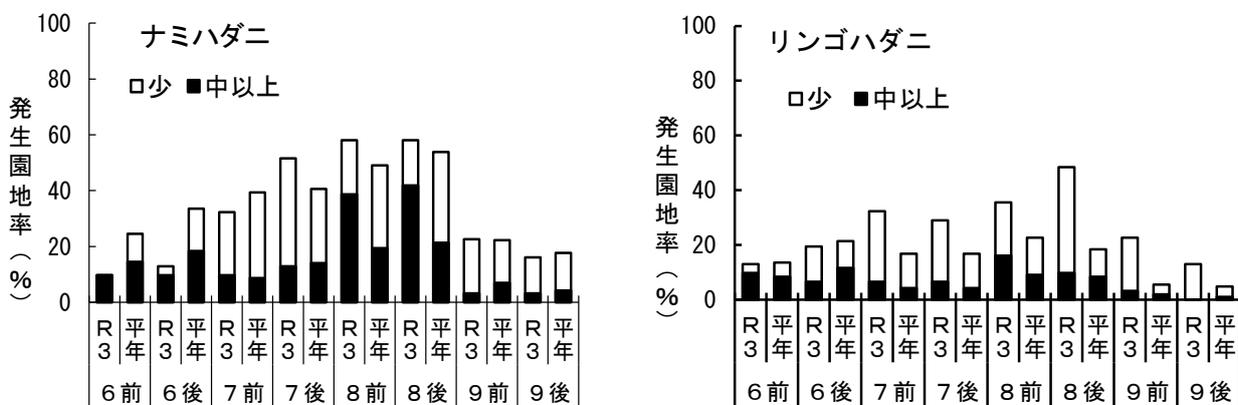


図12 ハダニ類の時期別発生園地率の推移 (6月~9月、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ)

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年 19.0%、図 13）。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は 12.9%（平年 6.8%）で、平年よりやや高かった（図 14）。

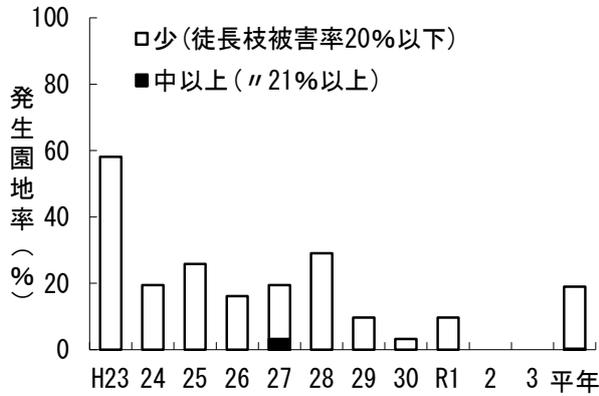


図 13 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (9月後半)

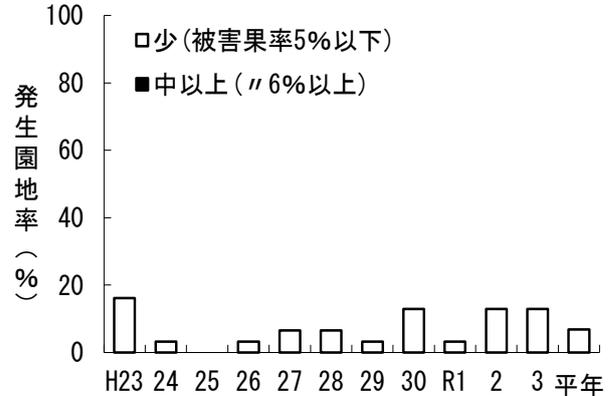


図 14 シンクイムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生園地率は 22.6%（平年 13.9%）で、平年よりやや高かった（図 15）。
- (2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、8月第1～2半旬にピークが見られ、9月は平年を下回った。年間誘殺頭数は、盛岡市川目、北上市更木ともに平年並であった（図 16）。
- (3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、7月第3～5半旬にピークがみられた。年間誘殺頭数は、基準圃で平年並、盛岡市川目、北上市更木、一関大東町で平年より少なかった（図 17）。

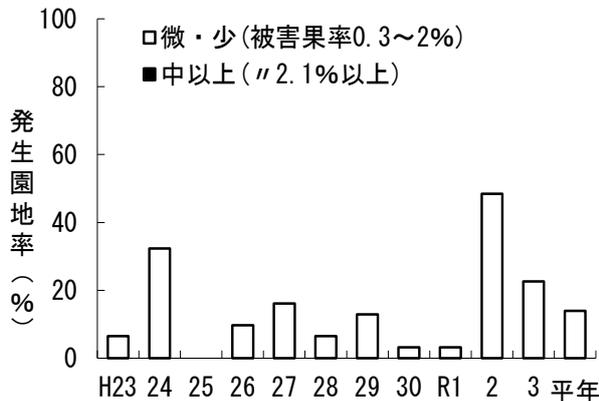


図 15 果樹カメムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

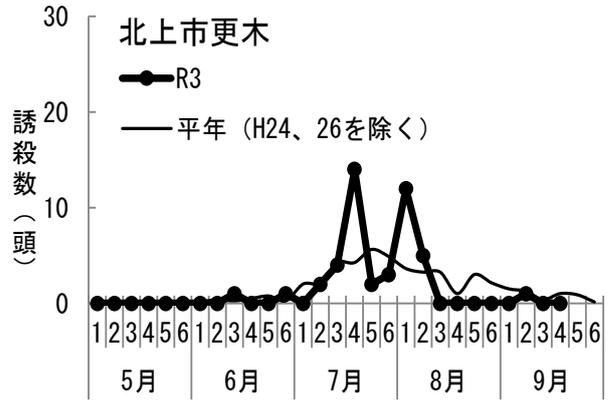
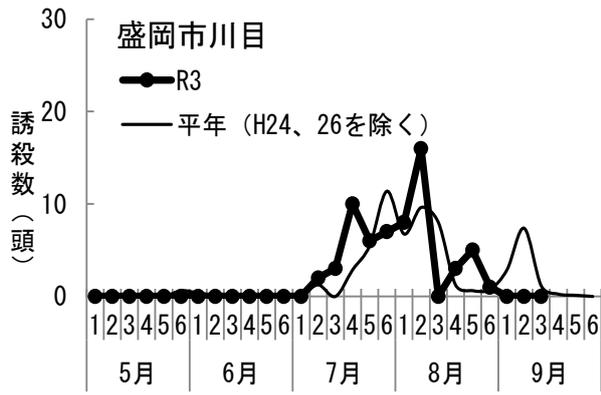


図 16 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)
(H24：激発年、H26：多発年)

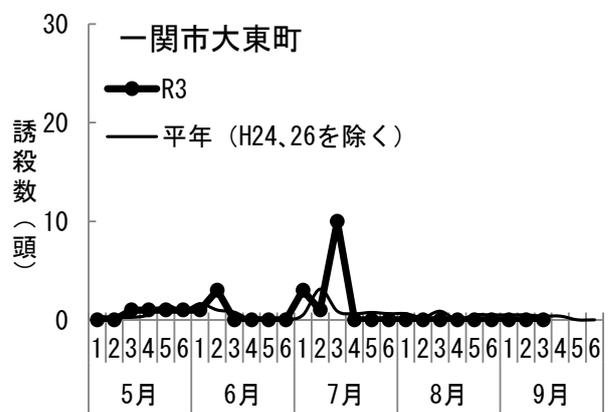
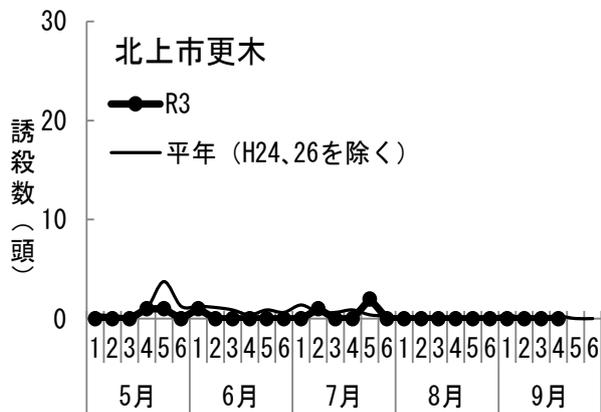
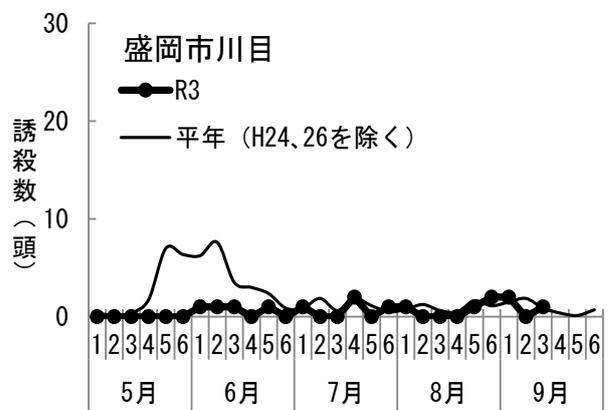
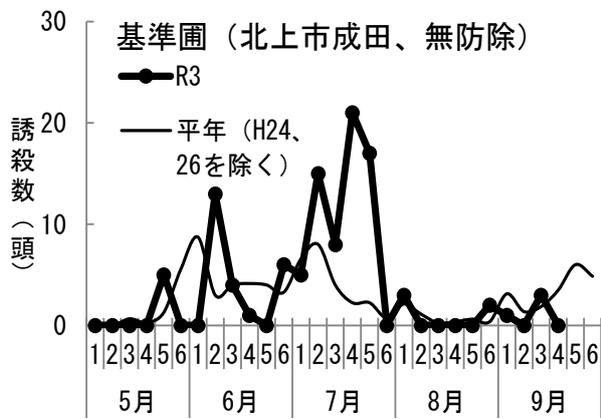


図 17 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
(左上：基準圃場 (北上市成田、無防除)、右上：盛岡市川目、左下：北上市更木、右下：一関市大東町)
(H24：激発年、H26：多発年)

農作物病害虫発生現況情報（9月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は66.7%（平年68.9%）で、平年並であった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は36.4%（平年63.0%）で、平年より低かった（図2）。

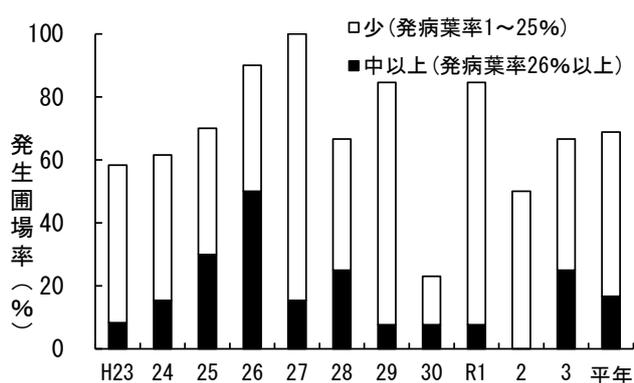


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

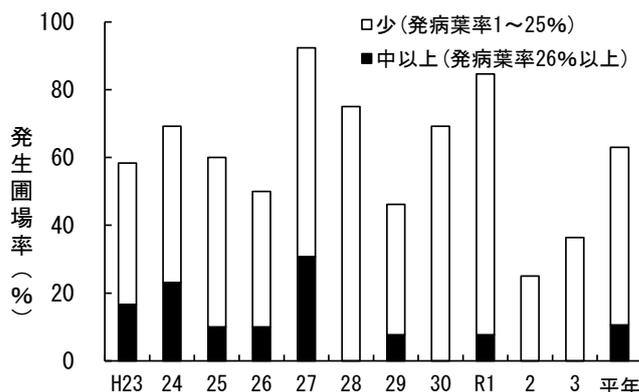


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

3 褐斑病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は90.9%（平年68.7%）、発生程度の高い圃場率は72.7%（平年44.8%）で、いずれも平年より高かった（図3）。

4 炭疽病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は90.9%（平年79.4%）で、平年より高かった（図4）。

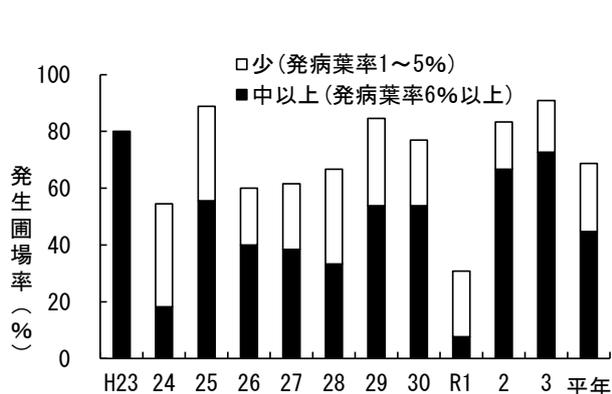


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

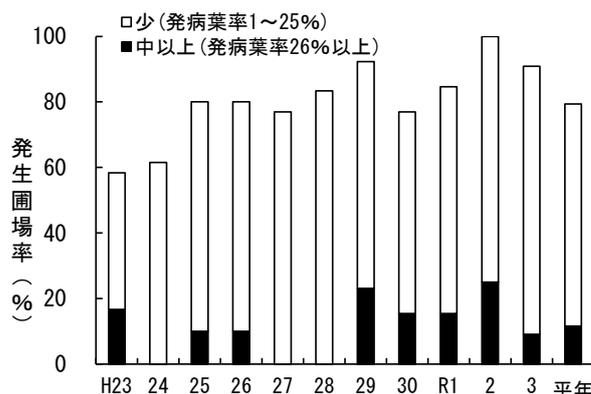


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

5 斑点細菌病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は81.8%（平年10.3%）で、平年より高かった（図5）。

6 黒星病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった（平年17.6%、図6）。

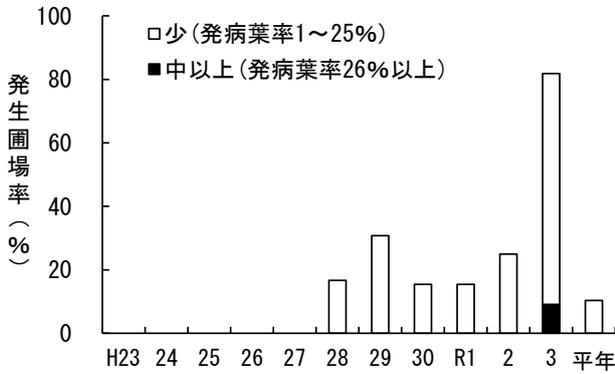


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

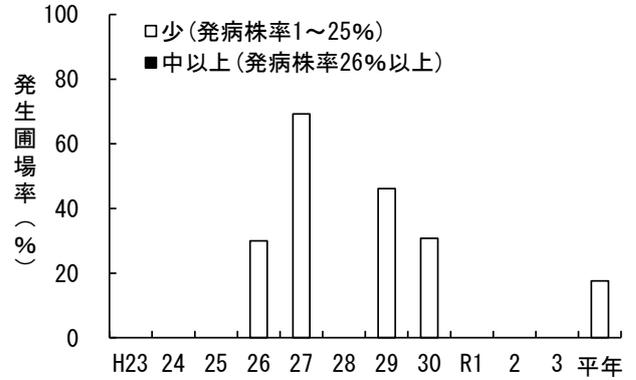


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

7 ワタアブラムシ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は9.1%（平年17.3%）で、平年より低かった（図7）。

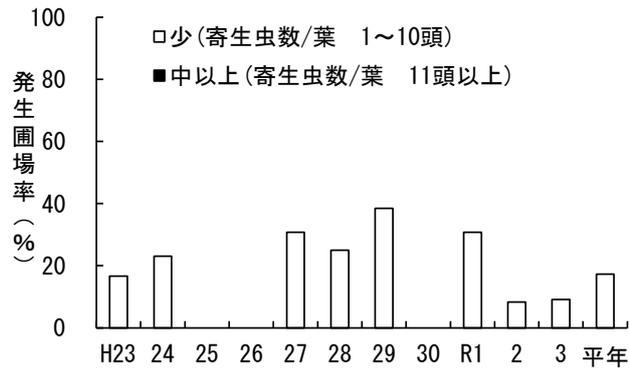


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

農作物病害虫発生現況情報（9月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 9月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年6.0%、図4）。幼虫発生圃場率は10.0%（平年31.3%）で、平年より低かった（図5）。

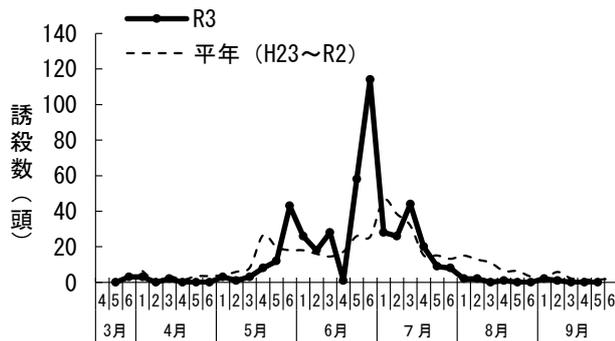


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

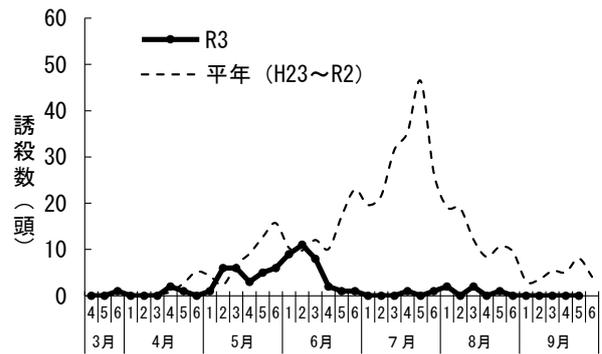


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

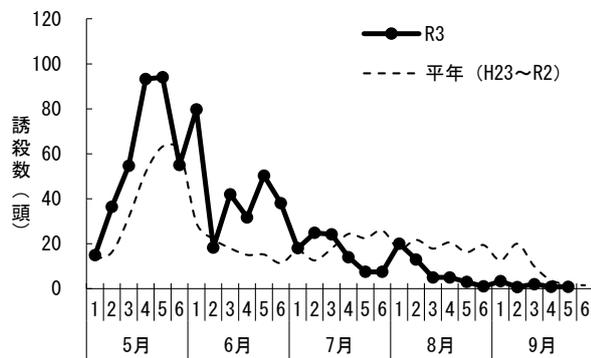


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

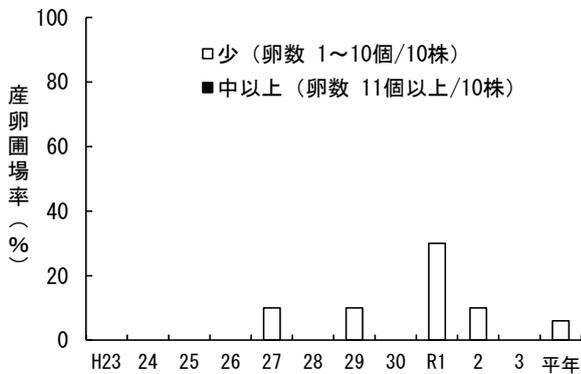


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

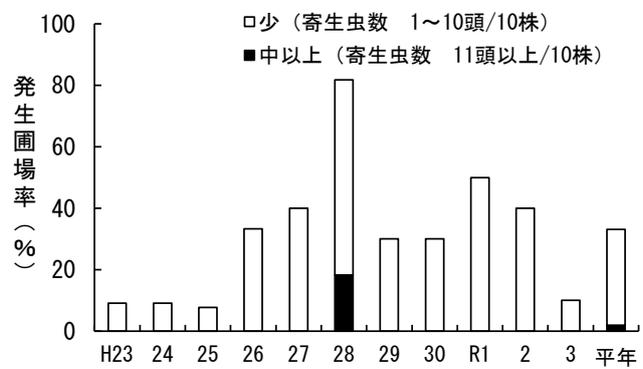


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（9月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月第5半旬まで確認された。（図6）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月第2、第3半旬に増加した（図7）。
- (3) 9月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は20.0%（平年18.2%）で、平年並であった（図8）。

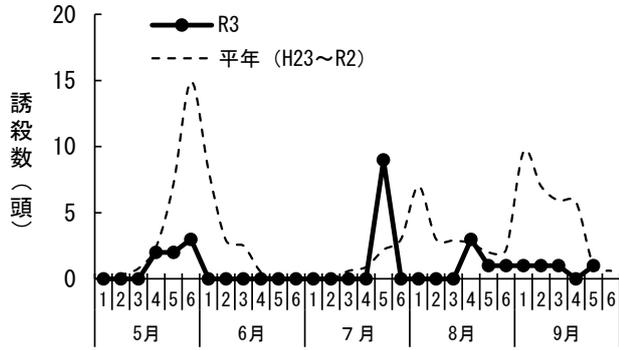


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

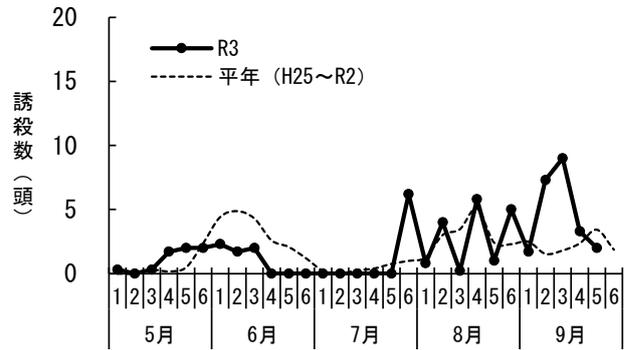


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

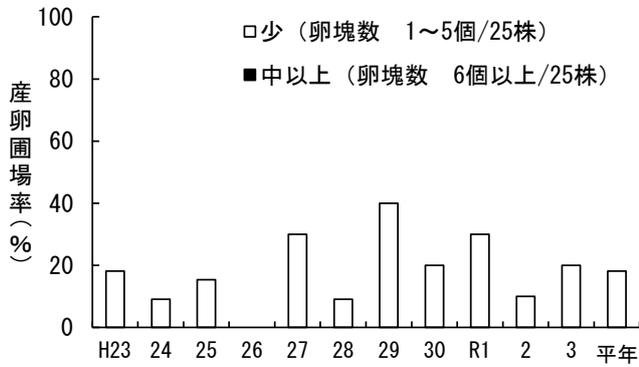


図8 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（9月） ねぎ編

1 さび病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.0%（平年26.2%）、被害程度中以上の圃場率は10.0%（平年14.7%）であり、いずれも平年並であった（図1）。

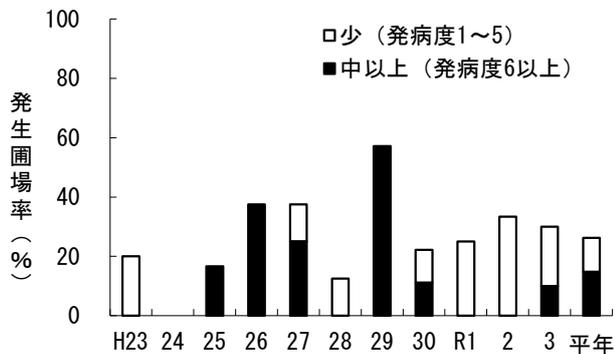


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（9月下旬）

2 べと病

(1) 9月下旬の巡回調査では、例年通り発生は確認されなかった（平年0%、図省略）。

3 黒斑病・葉枯病

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年83.4%）であり、平年より高かった（図2）。

(2) 一部の圃場では、葉枯病の黄色斑紋病斑も確認されている。

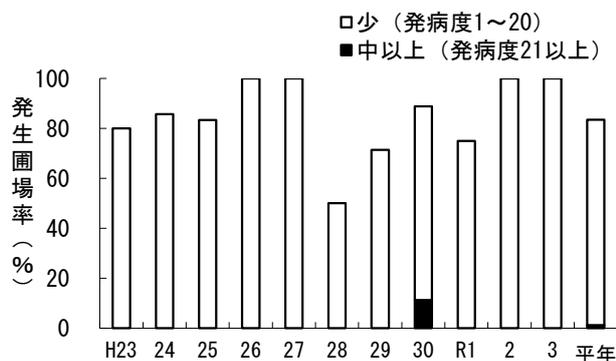


図2 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（9月下旬）

4 ネギコガ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0%（平年40.3%）で、平年より低かった（図3）。

(2) 時期別の被害葉率は、9月上旬以降、平年よりも低く推移している（図4）。

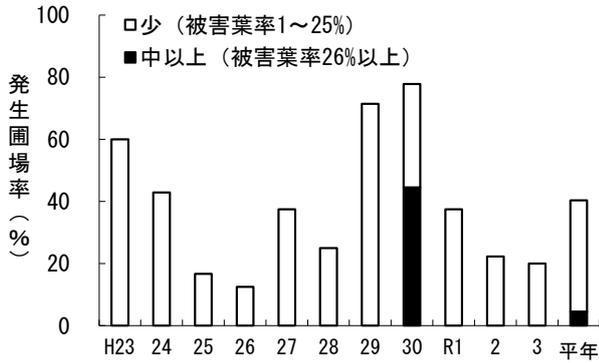


図3 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

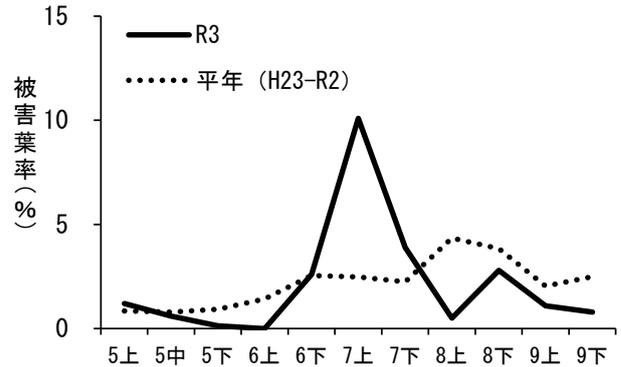


図4 ネギコガ被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年71.7%）であり、平年より低かった。被害程度中以上の圃場率は30.0%（平年34.4%）で、平年並であった（図5）。

(2) 時期別の被害度は、9月上旬は平年より高かったが、9月下旬は平年よりも低くなった（図6）。

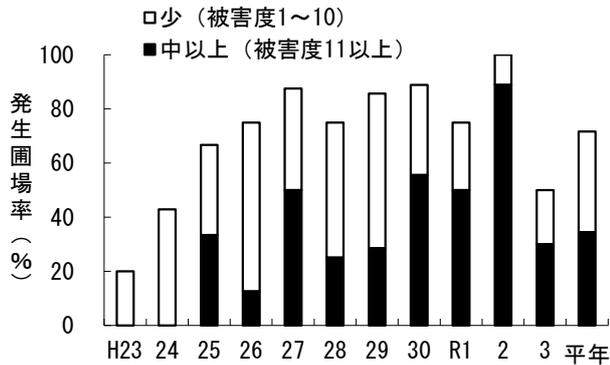


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

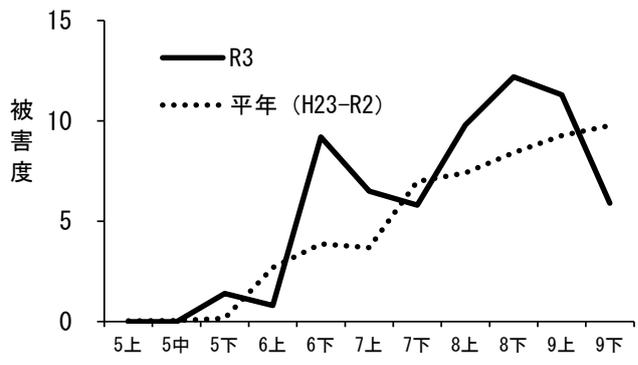


図6 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = (4A + 3B + 2C + D) \times 100 / (\text{調査株数} \times 4)$$

※A：被害程度甚、B：多、C：中、D：少の株数

6 ネギアザミウマ

(1) 9月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年84.3%）であり、平年より高かった。被害程度中以上の圃場率は50.0%（平年51.8%）で、平年並であった（図7）。

(2) 時期別の被害度は、9月上旬以降は平年並で推移した（図8）。

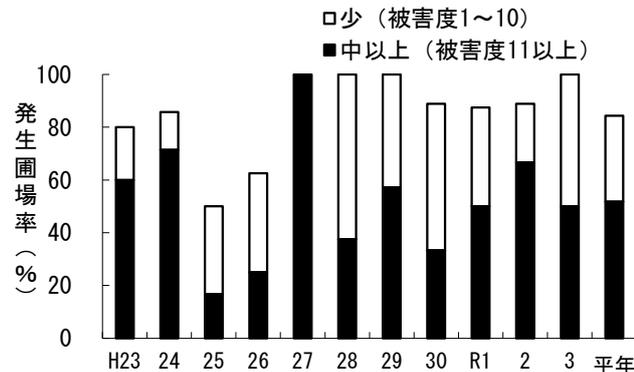


図7 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (9月下旬)

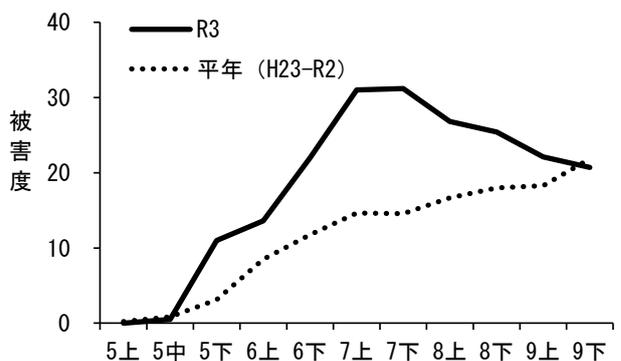


図8 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = (4A + 3B + 2C + D) \times 100 / (\text{調査株数} \times 4)$$

※A：被害程度甚、B：多、C：中、D：少の株数

農作物病害虫発生現況情報（9月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は42.9%（平年28.6%）で平年より高く、採花部での発生圃場率は14.3%（平年13.0%）で、平年並であった（図1）。

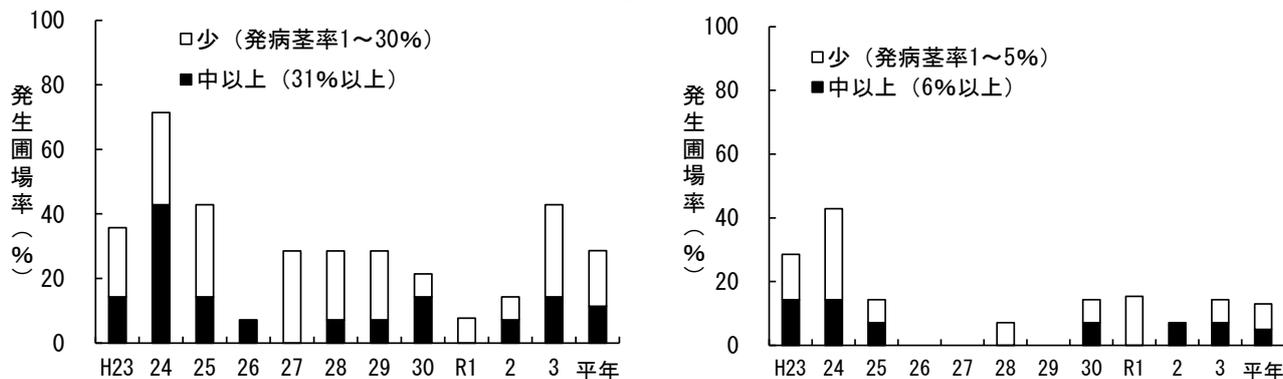


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、9月中旬）

2 褐斑病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は7.1%（平年5.7%）で、平年並であった（図2）。

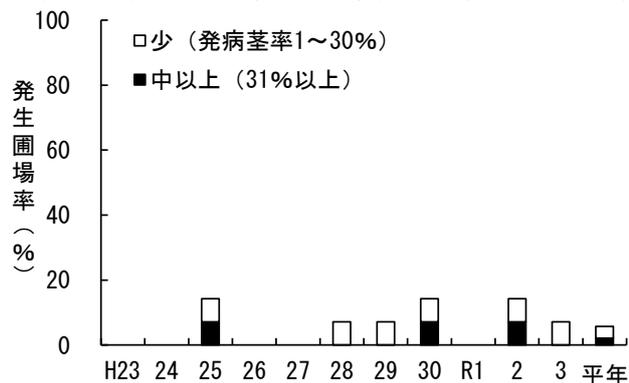


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

3 花腐菌核病

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年5.1%、図3）。

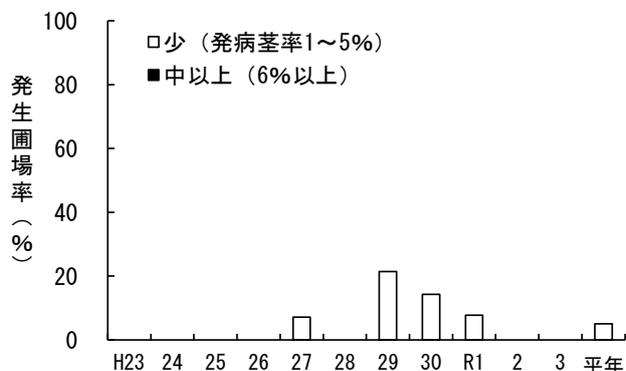


図3 花腐菌核病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

4 ハダニ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は28.6%（平年26.6%）で、平年並であった（図4）。

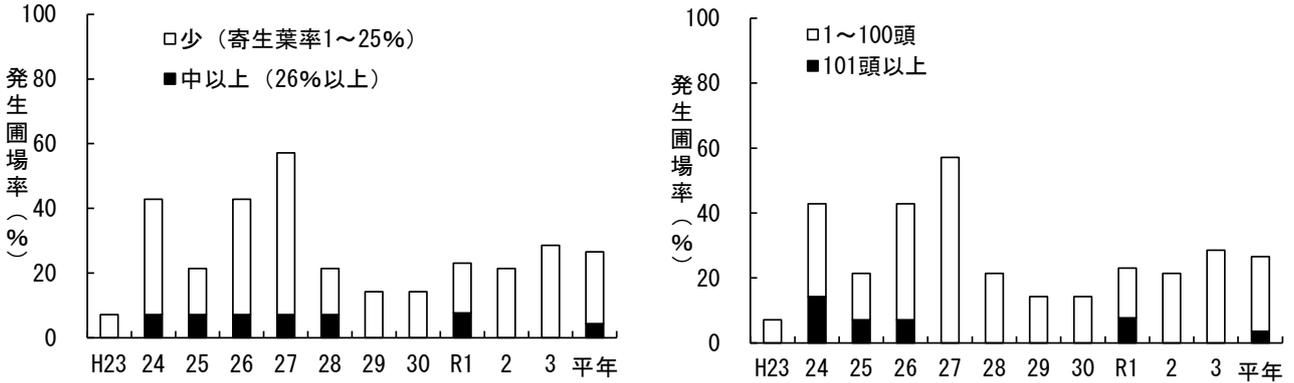


図4 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉、9月中旬）

5 リンドウホソハマキ

(1) 9月中旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は21.4%（平年45.8%）、生長部および茎部被害の発生圃場率は14.3%（平年21.5%）で、いずれも平年より低かった（図5）。

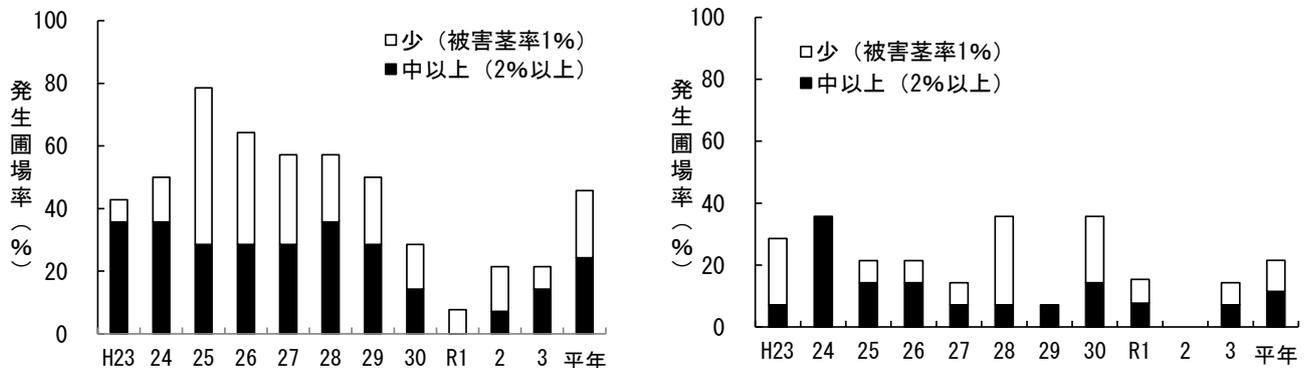


図5 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部、9月中旬）

6 アザミウマ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は42.9%（平年52.9%）で、平年よりやや低かった（図6）。

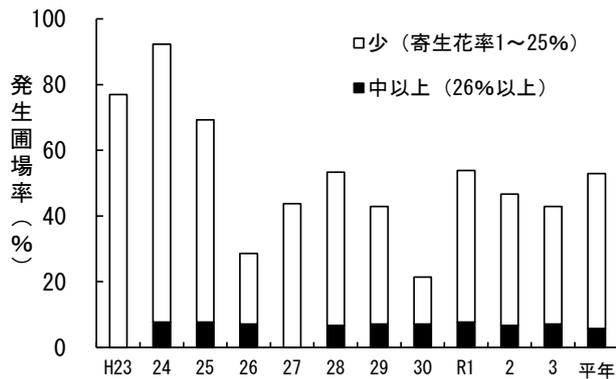


図6 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

7 アブラムシ類

(1) 9月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった。